

## 校庭芝生化の教育的価値に関する一考察

### A study on the educational value of attempts at school turf

1K06B200

指導教員 主査 友添秀則先生

松井祐太郎

副査 吉永武史先生

#### 【本研究の動機・目的について】

数年前、著者がオーストラリアの中学に短期留学した際、その光景に驚かされた。生徒たちは休み時間のたびに芝生の上を走り回り、植物の周りで昼食をとったりしていた。日本人の著者にとって、その光景は魅力的であった。そうした経験とともに、日本でも、近年では校庭芝生化への取り組みがおこなわれていることを知り、関心をもった。それが本研究の直接的な動機である。

日本では、1970年代から各地で校庭芝生化がおこなわれてきた。しかし芝生化の導入・維持など、政策や制度上の問題から失敗に終わってしまう事例が多く報告されてきている。

それにもかかわらず、現在でもなお多くの都道府県が校庭芝生化を推進しようとしている。それはやはり、芝生の校庭自体に何らかの魅力と意義があることが、少なくとも一部では認識されているからであろう。そうした傾向を背景として、今ここで改めて校庭芝生化に存在する教育的価値について考察する必要があると考えた。

したがって、本研究は、校庭芝生化が子供に与える教育的効果、校庭芝生化の現状と課題などを明らかにし、校庭芝生化を推進することの意義を示すことを目的とする。そこからさらに、校庭芝生化がもつ教育的価値、および現代の学校における妥当性と必要性の主張につなげていきたい。

#### 【本研究の方法について】

本研究における上記の目的をふまえ、次のように議論を展開する。まず、校庭空間や教育的価値についての予備的検討をおこなう。その際、分析の対象選定および視点の検討については、スポーツ研究だけではなく芝草研究の見地からの先行研究に依拠する。続いて、校庭芝生化の歴史的変遷を概観することで、校庭芝生化をめぐる実践的試みの変遷だけではなく「校庭を芝生化する」という考え方それ自体の変遷をも明らかにする。それらをふまえて、校庭芝生化の課題と意義を明らかにする。最後に、事例分析として、多くの都道府県が実施している校庭芝生化の中から、東京都が推進しているプロジェクトに焦点を当てる。校庭芝生化に関わる東京都環境局職員へのインタビュー調査をおこない、その結果をふまえて、都道府県の実践における具体的な課題を明らかにし、その解決に向けた方策を検討するとともに、事業推進の意義を示していくこととする。

#### 【第一章】

「分析の対象および視点の予備的検討」と題し、校庭芝生化について考察するにあたって、学校空間における校庭の位置づけと変遷や本研究内での教育的価値という分析視点を述べている。

#### 【第二章】

「校庭芝生化の現状」と題し、1970 年代と 1990 年代から現在までを比較し、校庭芝生化の維持管理における技術的・管理的課題や、校庭芝生化がもたらす地域社会の形成・社会性の発達などの意義を述べている。

### 【第三章】

事例：「緑の東京 10 年プロジェクト」の背景や意義・課題を述べている。東京都環境局職員へのインタビューをもとにこのプロジェクトの今後について述べている。

### 【結章】

校庭芝生化の意義と課題を比較考察した上で、「緑の東京 10 年プロジェクト」をはじめとする芝生化事業推進の必要性を提言している。